

(別紙1)応募様式

No. _____

教育改善提案書

所属学科名（または所属課又は団体名）看護学科
応募者氏名(代表者氏名)三井弘子

1. 提案名	災害時における鈴鹿医療科学大学の地域貢献
2. 趣旨・理由を含めた提案内容の概要	本学に隣接する桜の森公園は、ヘリポート、備蓄倉庫、さらに防災用テントとなる施設を備えており、災害時には対策の拠点となる可能性がある。災害時に被災された地域の方々に、いち早く安全と安心を提供し、地域に貢献する大学をめざす。
3. 提案の具体的な内容	1. 災害時を想定した訓練(当日の訓練) 災害時、近隣からの傷病者を桜の森公園内駐車場に集め、トリアージを行い、緊急性の高い患者から救急搬送することを想定し、以下の訓練を行う。患者役は傷病に関する事前学習をした学生及び地域住民とする。 ・傷病者の搬送訓練:担架による搬送、応急担架による搬送、徒手搬送 ・傷病者のトリアージ訓練 ・傷病者の応急処置訓練 ・搬送待機中の傷病者の観察・保護訓練 ・桜の森公園内の防災施設の設置訓練 ・消防・自治体等、関係施設との連携訓練 2. 訓練実施前の事前学習(訓練当日までの準備) 訓練時に傷病者役と救護役を演じる学生・地域住民を公募し、発生しうる傷病、成り行きなどを学習してもらい、リハーサルを行う。この時、傷病者役は、後日、受傷後の状態の変化についての学習・リハーサルを別途行う(例えば、頭部外傷で、トリアージ時は意識レベルが清明だったものが、搬送待機中に痙攣をおこし意識レベルが低下する等)
4. 期待できる効果	・防災訓練を実施することにより、災害時に備えることができる。 ・災害時に、迅速な行動により地域貢献することができる。 ・訓練に参加した地域住民の方が、本学に親しみを感じていただける。

	・傷病者役として参加した学生が、役作りのためにけがをした方々の症状や起こりうる状態の変化について理解を深めることができる。 ・救護者役の学生が、災害時の傷病者の対応について理解を深めることができる。例えば、頭部外傷を負った方が、トリアージ後に意識レベルが低下する設定であれば、トリアージ後の観察の重要性を学ぶことができる。
--	---